

一時立入者に対するスクリーニング活動

文部科学省からの協力依頼により、福井大学大学院工学研究科の菊池彦光教授は住民一時立入者に対するスクリーニング作業に参加しました。

参加した期間は6月20日から23日の4日間でしたが、前後1日ずつは移動日でしたので、実際にスクリーニングをおこなったのは21日、22日の二日間でした。

20日の19時から福島県自治会館にて行われたミーティングで実際の業務に関する説明を受けました。一時立入り希望の住民の方は避難先から中継基地として用意されている集合場所に集まり、説明を受けた後、バスにて警戒区域に立ち入るという日程でした。今回担当した中継基地は古道体育館（田村市）で、大学からの参加者は両日とも10名前後でした。

21日は県庁前に7時に集合した後バスにて古道体育館までバスで移動し、8時40分に体育館に到着しました。この日に立入を予定しておられる住民は双葉町104名と大熊町152名の方々に、午前中に問診票記入後、各自防護服に身を包み複数のバスにて移動されました。自宅に立入が出来る時間は2時間であり、大体14時頃から16時頃にかけて中継基地に戻ってくるという日程で行われ、その間に防護服を着用するなどのスクリーニング準備を行いました。

スクリーニングは、大学関係者と電気事業連合会の関係者が協力し、各班約4名の8班に分かれ、住民及び家から持ち出された物品のスクリーニングをGMサーベイメータを用いて行うというものです。実際の作業は2時間から2時間半程度で、2日ともほぼ同様の作業を行いました。両日とも除染が必要なケースはなく、大きなトラブルや混乱は発生しませんでした。

作業を統括されていた方によると、まだまだ人手が足りないので、大学からの更なる協力をお願いしたいとのことでした。

自分の家に戻るのに許可がいるという異常事態にも関わらず、秩序を保っておられる住民の方の姿に感服しました。



一時立入説明終了後の様子。



バスに乗り込む住民の方々。



スクリーニングの準備風景。